

# 経営効率化への取組み

平成20年7月

九州電力株式会社

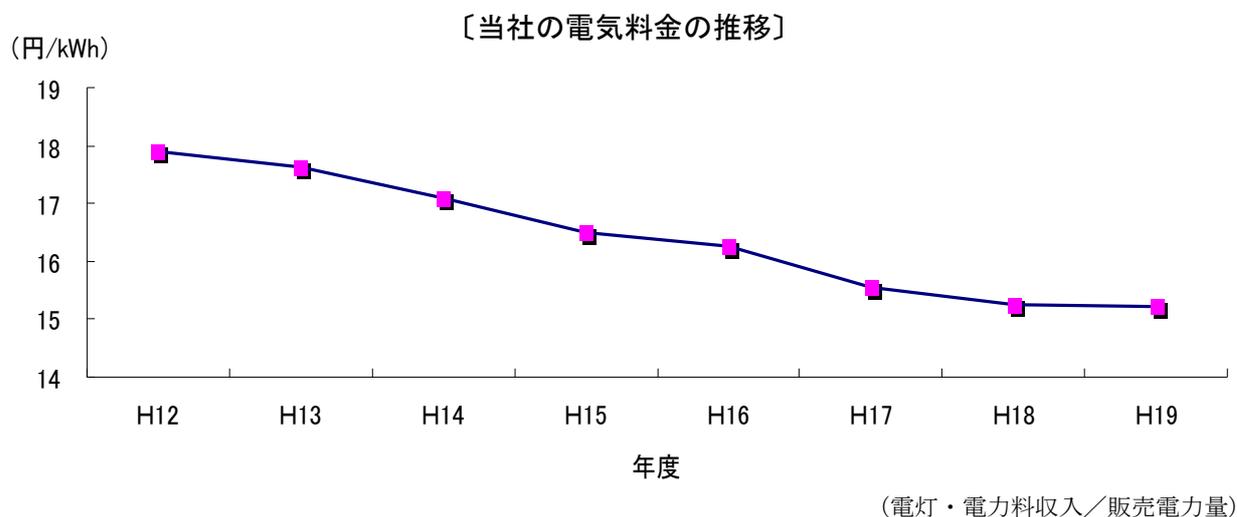
## 目 次

1	電気料金の現状	
(1)	電気料金の推移	1
(2)	コスト構造の推移	1
2	経営効率化への取組み	2
(1)	設備投資の効率化	2
(2)	修繕費・諸経費の効率化	3
(3)	業務運営の効率化と労働生産性の向上	4
(4)	設備運用の効率化	5
(5)	資機材・燃料調達コストの低減	6
3	お客さまニーズに基づいた事業展開	7
(1)	省エネ快適ライフの推進	7
(2)	お客さまサービスの向上	8
4	今回の料金に反映した効率化額について	9

# 1 電気料金の現状

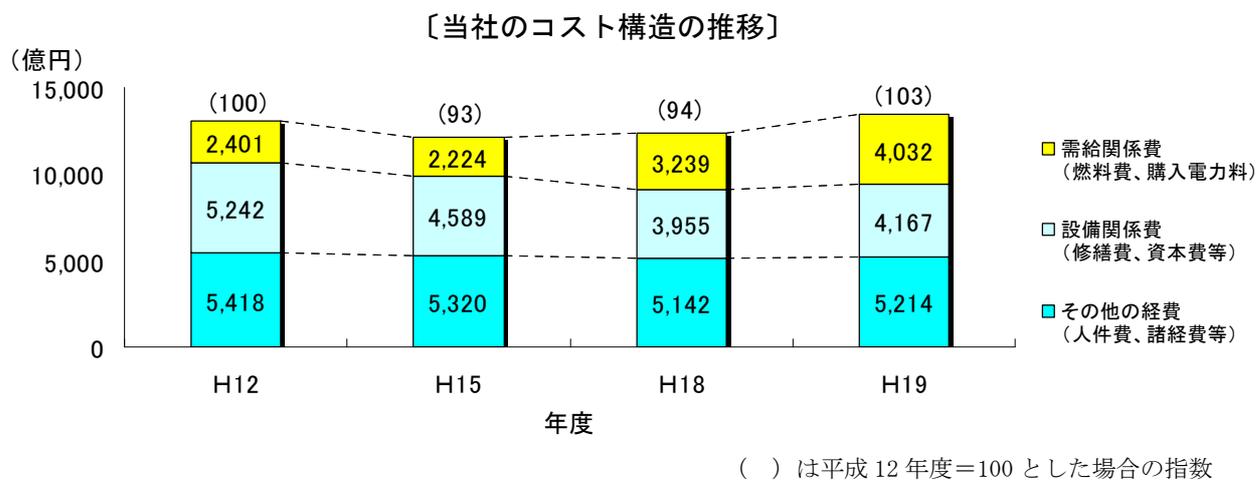
## (1) 電気料金の推移

- 当社は、エネルギー市場における競争が本格化するなかで、お客さまや株主、投資家の皆さまから選ばれる企業を目指し、競争力の強化や財務体質の改善に取り組んでおります。



## (2) コスト構造の推移

- 平成12年3月より電力の小売自由化が開始され、当社では経営全般にわたる効率化を推進してきた結果、設備関係費や人件費・諸経費等のコストを着実に低減してまいりました。
- 一方、昨今の世界的なエネルギー価格の高騰により、当社のコスト全体に占める燃料費の割合が増大しております。



## 2 経営効率化への取組み

### (1) 設備投資の効率化

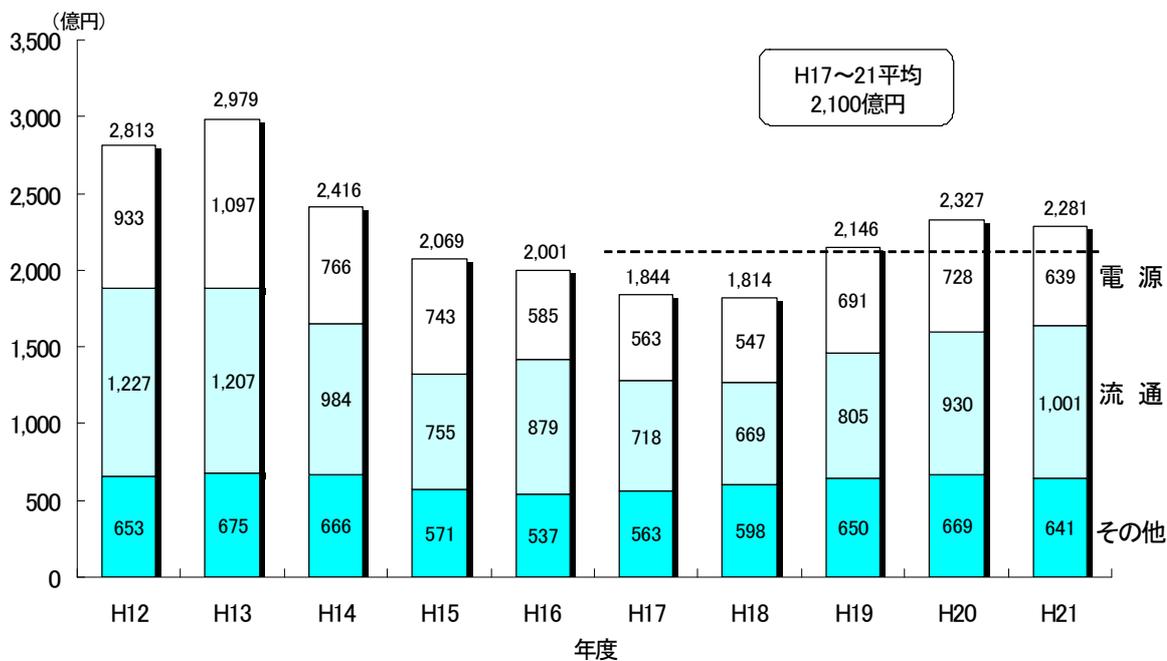
平成 17～21 年度の設備投資額を年平均 2,100 億円とします。

- 設備投資は、これまで設計・施工面のコストダウンなど、計画全般にわたる効率化に取り組んできました。
- 今後の設備投資額は、需要増への対応や供給信頼度維持、設備の高経年化対策などの増加要因はありますが、設計基準や仕様、実施時期の見直しなどにより、更なる効率化に努めます。

#### －具体的取組み－

- ・ 計画基準・取替基準の見直し  
(設備の機能向上、運用技術の高度化に基づく取替時期の延伸 など)
- ・ 設計基準・仕様の見直し、施工面のコストダウン  
(データの分析結果等に基づく設備仕様・工法の見直しによる資材量・工数の低減 など)

〔設備投資額の推移〕



(注) 設備投資は附帯事業を含む

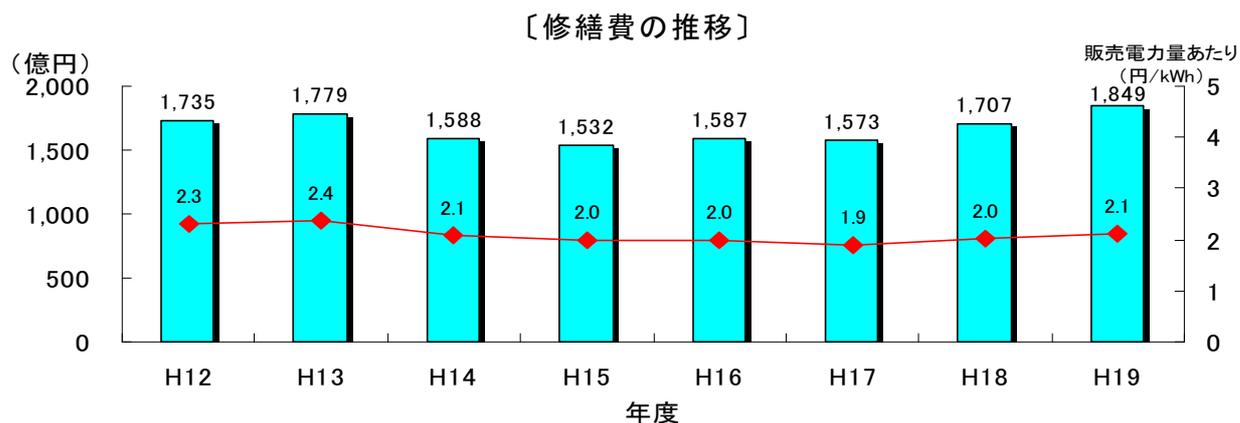
## (2) 修繕費・諸経費の効率化

修繕費・諸経費の更なる効率化を推進します。

- 修繕費については、電力設備の経年化の進展などに伴う増加はありますが、設備の点検・修繕内容の見直しなどにより、設備保全の高度化・効率化を図ります。

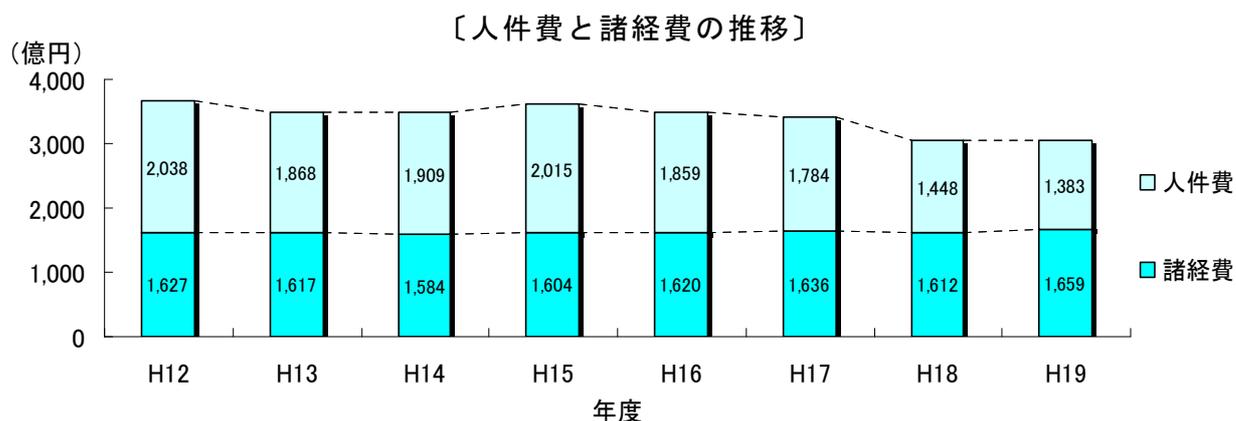
－具体的取組み－

- ・ 設備保全へのリスクマネジメント手法<sup>※</sup>導入による効率化
  - ※ 供給信頼度に直接影響しない設備の事後補修化など
- ・ 障害実績・評価等に基づく点検・修繕内容の見直し
- ・ 緊急度や影響度等の精査による工期短縮や実施時期の繰延べ



- 諸経費については、緊急度や費用対効果など、徹底した精査により支出を抑制し、業務全般にわたる効率化に取り組みます。

なお、業務効率化のためのシステム開発などに伴う一時的な増加はありますが、人件費の低減に寄与しています。



### (3) 業務運営の効率化と労働生産性の向上

I Tを活用した業務プロセス改革など、業務運営の一層の効率化に努め、労働生産性の更なる向上を図ります。

- 平成 19 年度末の在籍人員は、前年から 204 人減の 12,466 人となり、労働生産性（一人あたり販売電力量）は、平成 17 年度末に比べ 12%の向上※となりました。

※ 現行目標：平成 21 年度末までに平成 17 年度末比 10%以上の向上

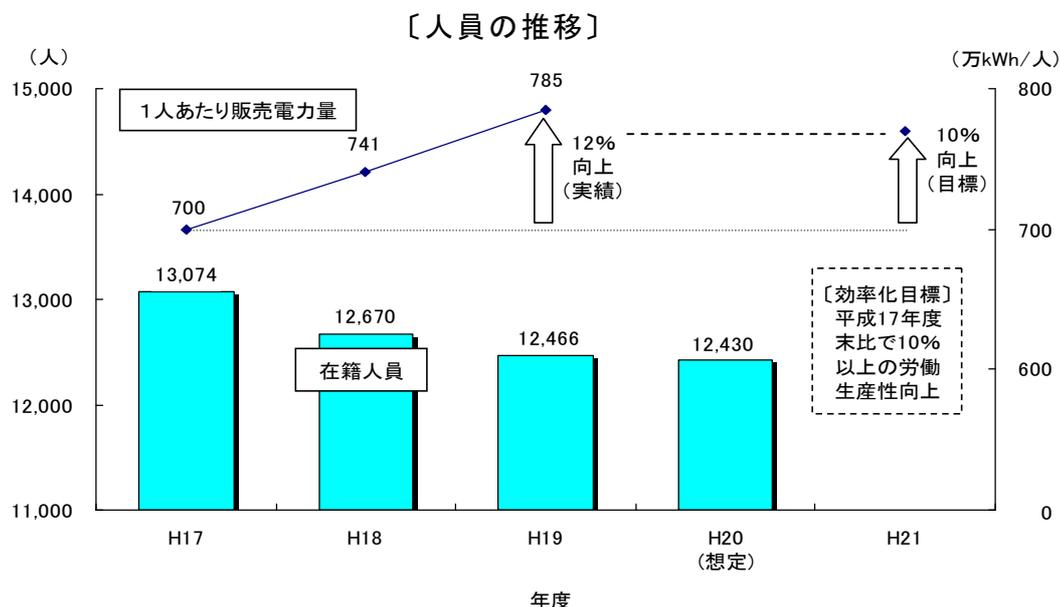
- 今後も、I Tを活用した業務プロセス改革や全社各部門の事務处理的業務の一層の集中化などにより業務運営の効率化を推進し、労働生産性の更なる向上を図ります。

#### — 具体的取組み —

- ・ I T活用による業務プロセス改革（全社・各部門データの一元化・共有化、モバイル化などによる業務プロセスの効率化・高度化）
- ・ 全社各部門の事務处理的業務などの更なる集中化・効率化推進を所管する部署として「業務部」の設置

#### 全社各部門の集中処理の推進

- 全社各部門の事務处理的業務などについて、これまでの事務系部門業務の集中処理や社外委託化などに加え、以下の取組みを実施
  - ・ 事務系に限らない、技術系を含めた集中化の検討や提案
  - ・ 支店や現業機関における更なる効率化策等についての検討 など



(注) 1人あたり販売電力量の人員は新規事業従事者・出向者等を除く

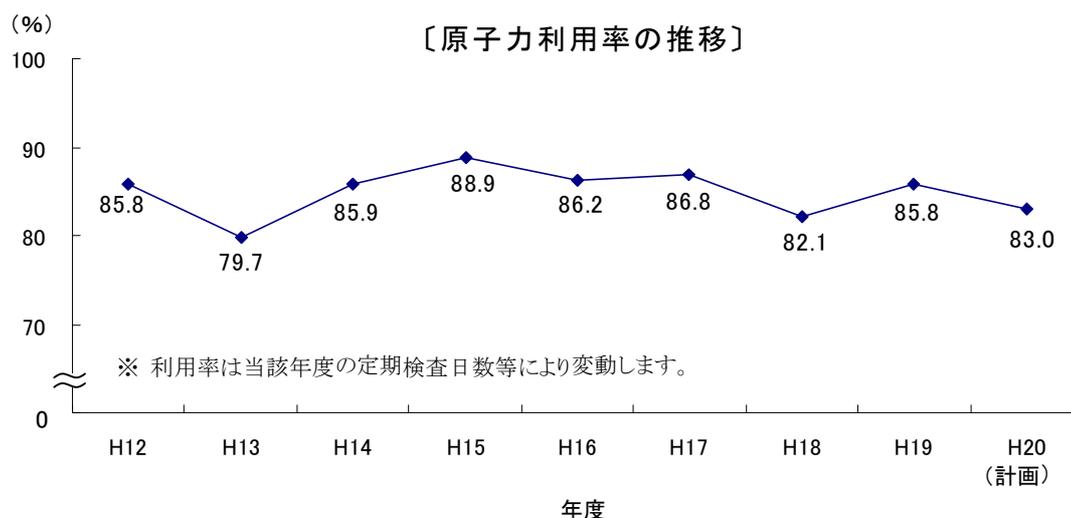
#### (4) 設備運用の効率化

##### a. 原子力利用率の高水準維持

原子力発電所の設備利用率の高水準維持に努めます。

- 原子力発電所の安全安定運転の継続、定格熱出力一定運転の実施、予防保全対策の徹底などにより、利用率の高水準維持に努めます。

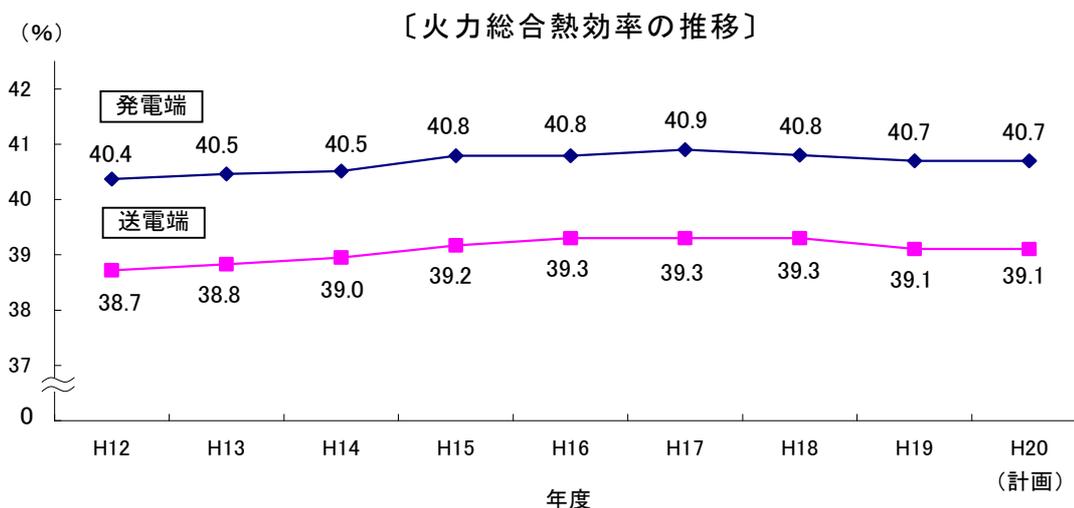
※ 原子力発電は火力発電に比べ燃料コストが低いため、原子力利用率の高水準維持により、燃料費が節減されます。



##### b. 火力熱効率の維持・向上

火力発電所の総合熱効率の維持・向上に努めます。

- 高効率発電所であるLNGコンバインドサイクル発電所や石炭火力発電所の高稼働維持により、総合熱効率の維持・向上に努めます。
- 燃料調達の安定性、経済性に優れた石炭火力発電所については、定期点検工期短縮等に取り組み、高稼働維持に努めます。
- また、既存設備の更なる発電効率向上のひとつとして、新大分発電所1号系列の高効率ガスタービンへのリプレースを、平成21年から平成24年にかけて行います。



## (5) 資機材・燃料調達コストの低減

### a. 資機材調達コストの低減

購買原価企画活動、サプライチェーン・マネジメント(SCM)の活用および発注方式の多様化などにより、資機材調達コストの低減を図ります。

- 資機材の購入や請負工事契約における調達コストを低減するために、購買原価企画活動・SCMの展開を図るとともに、VE（バリュー・エンジニアリング）※提案など、発注方式の多様化に取り組みます。  
※ VE：製品などの品質や機能を落とすことなく、コストダウンを実現するための手法
- 資機材の調達に当たっては、重要な役割を果たすグループ会社と一体となったコストの低減に努めてまいります。
- また、インターネットでの積極的情報公開などにより、国内外の新規お取引先の参入機会を拡大するとともに、電子商取引などの活用にも積極的に取り組みます。

#### 購買原価企画活動・SCMの展開

資材部門、設備主管部門とお取引先の三者が協働して、お取引先の製造から調達・運用までの一連のプロセスを対象に、総合的な調達コストの低減を追求します。具体的には、部品調達や製造工程の効率化および仕様の見直しなどの改善を実施するとともに、業務プロセス全体の最適化も図ります。

ホームページ上で「資材調達情報」を公開しています。  
([http://www.kyuden.co.jp/company\\_procurement\\_shizai\\_index](http://www.kyuden.co.jp/company_procurement_shizai_index))

### b. 燃料調達コストの低減

安定調達を確保しつつ、調達先の分散化、契約期間・価格決定方式の多様化などを推進し、燃料調達コストの低減および安定化を図ります。

- 生産・輸送・受入といった一連の調達工程（サプライチェーン）全体を対象として、更なる調達コストの低減と安定調達の確保に取り組みます。

#### ウラン鉱山プロジェクトへの参画

ウランの長期安定確保を図るため、カザフスタン共和国の新規ウラン鉱山開発・生産プロジェクトに参画しています。

- ・ 鉱山名：ハラサン鉱山
- ・ 埋蔵量：約 186,000 トン(MTU) (推定)
- ・ 生産期間：2008年～2050年頃
- ・ 生産量：5,000 トン(MTU)/年
- ・ 引取量：50 トン(MTU)/年

#### LNG船の建造

輸送コスト管理による経済性の一層の追求と、柔軟な輸送手段確保による安定調達を推進するため、東京電力(株)と共同でLNG船を建造しています。

- ・ 就航：平成21年4月(予定)
- ・ 仕様：モス型球形タンク4基  
全長 288m  
積載量 145,000 m<sup>3</sup> (6.7万トン)
- ・ 造船所：三菱重工業(株)長崎造船所

### 3 お客さまニーズに基づいた事業展開

#### (1) 省エネ快適ライフの推進

お客さまに快適で環境にやさしい生活をおすすめします。

○ 地球環境問題、資源エネルギー問題への関心や危機意識の急速な高まりを踏まえ、お客さまにムリなくムダなく電気を上手に使っていただき（省エネルギー）、快適で環境にやさしい生活をお送りいただく「省エネ快適ライフ」をおすすめします。

○ 平成20年度は、「省エネ快適ライフ」の推進で8万t-CO<sub>2</sub>/年の削減を目指します。

ー具体的取組みー

- ・ 省エネルギーの積極的PR
- ・ 省エネルギーに関するコンサルの推進
- ・ ヒートポンプ式空調やエコキュートの普及促進

○ お客さまの環境意識や快適性志向などにお応えするため、グループ企業の総合力を活用しつつ、お客さまの多様なニーズや課題に対する解決策を提案するトータルソリューション営業を推進します。

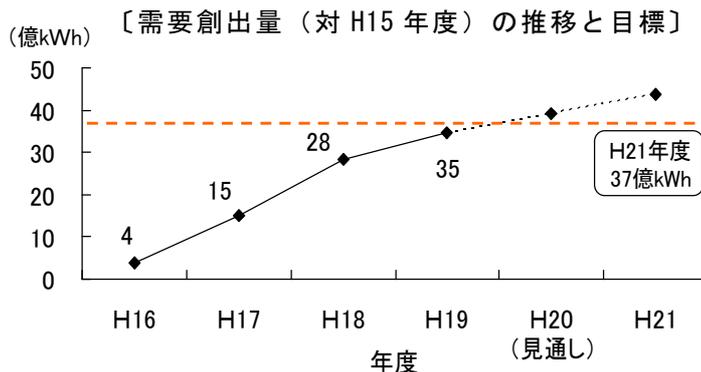
ー具体的取組みー

- ・ 「安心・快適・経済的・環境にやさしい」オール電化の推進
- ・ 効率的で快適な電化厨房の普及促進
- ・ 電気設備運用に関する技術サービスの提供
- ・ 最適料金メニューの提案

#### 〔新規需要創出量目標〕

新規需要創出量目標37億kWhについては、オール電化住宅の順調な伸びや自家発からの戻り需要の増加などにより達成が確実な状況です。

今後は、高効率のヒートポンプ式空調やエコキュートの普及促進など、効率的に電気を使っていただくという視点での需要創出を図ります。



## (2) お客様サービスの向上

最適なサービスでお客様のニーズにお応えします。

- 高度情報化時代に対応したITなどの最新技術を活用しつつ、お客様の生活スタイルの変化などに即した最適なサービスを展開します。
- お客様に最適なサービスをお届けするために、今後とも、お客様の声やニーズの積極的な収集に努めます。

### 最適なサービスの展開

お客様の声

#### 【お客様の声・ニーズの収集】

- 日常業務、各種懇談会、訪問活動、コールセンターでの電話受付時、ホームページ など

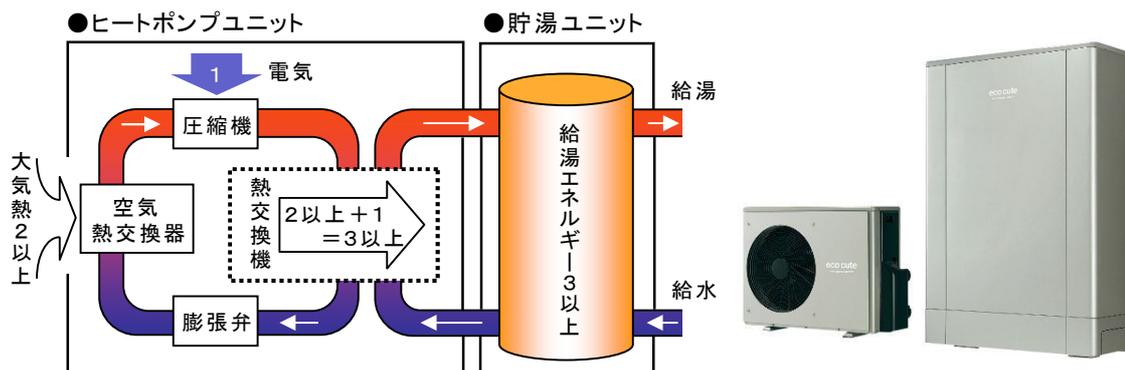
#### 【サービスの提供(例)】

- 停電時の早期復旧および災害時停電情報の携帯電話などでのきめ細やかな提供
- モバイル・ロケーションシステムを活用した迅速で的確なお客さま対応

最新技術

### ■エコキュート

エコキュートは、自然にある空気の熱を有効に利用するヒートポンプ給湯器であり、使用する電気エネルギーの3倍以上の熱エネルギーを得ることのできる高効率機器です。



#### 4 今回の料金に反映した効率化額について

- 今回の料金改定においては、約530億円の燃料費の増加に対し、経営全般にわたる効率化を徹底し、約140億円の原価低減額を織り込んでおります。

##### 〔原価低減額の内訳〕

増 加 額	燃 料 費		+ 530 億円
低 減 額	効 率 化	人 件 費	▲ 50 億円
		修 繕 費 ・ 諸 経 費	▲ 120 億円
		資 本 費	▲ 170 億円
		計	▲ 340 億円
	そ の 他		▲ 330 億円
計		▲ 670 億円	
原 価 低 減 額			▲ 140 億円



ずっと先まで、明るくしたい。

〒810-8720  
福岡市中央区渡辺通二丁目1番82号  
(092) 761-3031(代表)  
ホームページアドレス <http://www.kyuden.co.jp>